

ハイロチュウヒ *Circus cyaneus* (Linnaeus)

【選定理由】

冬期に、主に伊勢・三河湾沿岸のヨシ原やイネ科の草叢でねぐらを取り、農耕地や河川敷などを広く移動しながら狩りを行うが、県内のヨシ原や草叢の面積は激減している。主な餌場である農地は、道路建設や商工業施設などへ転用されることも多く、作物にも多様性がなくなっている。本来生息数はかなり少ないが、近年その数はさらに減少している。

【形態】

全長は雄が43～47cm、雌が48.5～53.5cm、翼開長は98.5～123.5cmの雌雄二型。雄は、上面全体と顔から胸および尾羽が淡灰色で、腹が白く外側初列風切が黒い。雌は、上面が全体的に暗灰褐色で、下面は淡褐色または赤褐色で前頸から腹にかけて暗褐色の縦斑があり、風切と尾は灰褐色で太くて明瞭な横斑があり、腰が白い。雄、雌ともに目と脚が黄色。幼鳥は雌に似るが、目の色が暗褐色。



愛知県西尾市, 2019年3月17日, 杉山時雄 撮影

【分布の概要】

【県内の分布】

冬期に伊勢・三河湾沿岸や河川のヨシ原および周辺の農耕地に生息し、時に内陸部の山地でも記録されることがある。

【国内の分布】

冬期に北海道から九州にかけて渡来し、南西諸島でも記録がある。

【世界の分布】

極北を除くユーラシア大陸北部と北アメリカ大陸北部で繁殖し、冬期は南下する。冬期はユーラシアでは、ヨーロッパ中南部、中近東北部、インド北部、インドシナ北部、中国南東部、台湾、朝鮮半島南部などに生息する。

【生息地の環境／生態的特性】

沿岸部のヨシ原や干拓地の農地だけでなく、標高1,000m以上の山地から山麓の里山まで、チュウヒという名のイメージからは意外な環境にも飛来して狩りを行う。隣県ではあるが、渡りの季節に標高1,300mの山頂で獲物を探している姿や、冬期に県内にある里山の農地で獲物を探し、林の中へ飛び込んで小鳥を捕らえる姿を観察したこともある。獲物は主にネズミなどの小型哺乳類や、小型の鳥類である。夕方チュウヒと共にねぐらに集合し、同じヨシ原や草叢に散在して夜を過ごす。

【現在の生息状況／減少の要因】

チュウヒと共に、県内に生息する個体の主なねぐらは、尾張地区では鍋田干拓の隣にある三重県木曾岬干拓、矢作川・矢作古川河口周辺では一色地区竹生新田、汐川・豊川河口周辺では田原4区埋立地であるが、それらの場所では、メガソーラーの設置や開発計画によりヨシ原が刈られている。

【保全上の留意点】

県内に存在するねぐらの環境を保全すると共に、干拓地や埋立地に存在する遊休地に、かつての県内に存在していた、生物多様性に満ちた湿地環境を再生するべきである。

【特記事項】

近縁のチュウヒに比べると少し小型で、狩りの動作はかなり俊敏である。チュウヒと異なり、動きの早い小鳥でも巧みに捕獲する。

【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.64. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)